

# 徳島市住生活基本計画の概要（案）

## 徳島市住生活基本計画の目的と位置づけ

### ■計画の目的

- 住宅・住環境に係る多様な課題に対して的確に対応する施策を示し、市民が安心して生活できる住まいづくり・まちづくりを計画的、総合的に推進する
- 住宅セーフティネットの確保について市営住宅を中心として今後の方向性を示す

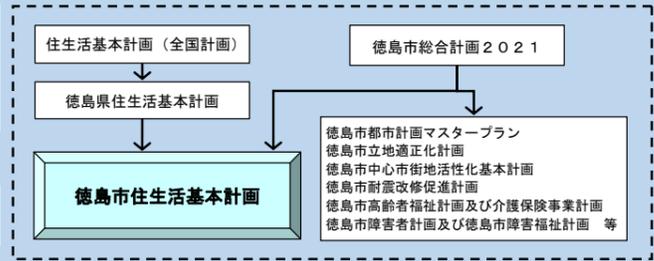
### ■計画の位置づけ

- 国及び徳島県の「住生活基本計画」、「徳島市総合計画 2021」を上位計画とし、徳島市の関連計画との連携を図る

### ■計画の期間

- 令和4年度～令和13年度（概ね5年後に見直し）

### ■計画関連図



## 徳島市の住宅・住環境を取り巻く現状と課題

### ●人口・世帯の動向

- 進行している人口の減少・少子高齢化は、今後も続くと予想されている
- 世帯の少人数化や高齢者のみ世帯の増加が止まらない状況にある
- 若年層で現在の住宅に住み続ける意向が増加し、意識に変化がみられる

### ●居住の安定確保に関する諸問題

- 単身高齢者は、今後さらに増加していく可能性がある
- 住宅に困窮する子育て世帯や多子家庭等、適切な規模の住宅を確保する上で家賃負担が大きい世帯向けの住宅を確保する必要がある

### ●住宅の適正管理

- 住宅ストックに多数の空家があり、借家では1/3が空家になっている
- 高経年マンションが5年後には4倍以上に急増する可能性がある

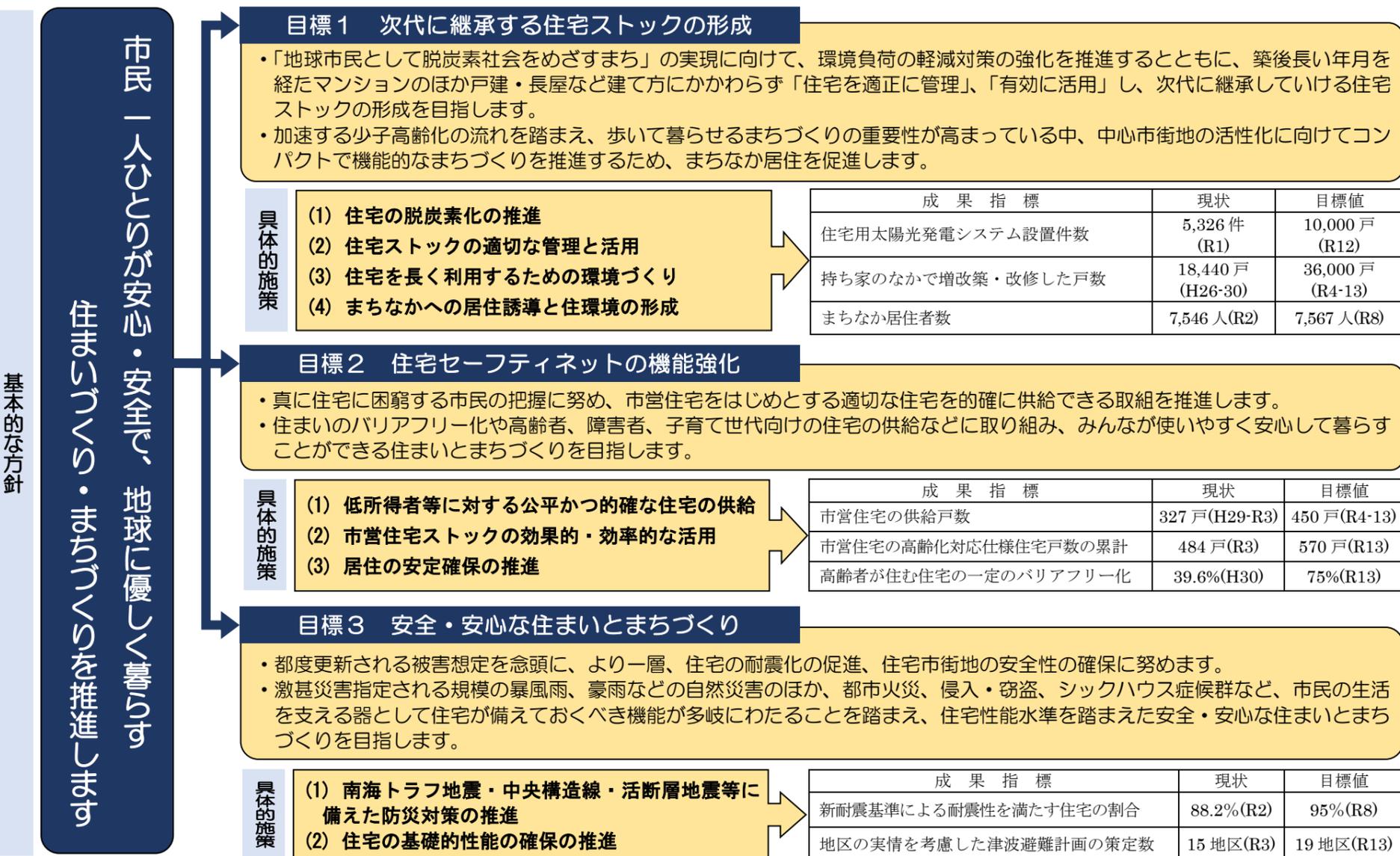
### ●市営住宅の状況

- 耐用年限を経過した住宅のほか、昭和20～40年代に建設された住宅では浴室がないなど、安全性や居住性能に課題がある
- 入居者の高齢化が進んでいる
- 特定目的住宅の募集戸数の増加が求められている
- 津波避難ビルなど、まちづくりの資源としての活用が求められている

### ●住宅・住環境に関する状況

- 旧耐震基準制度の下で建築された住宅が全体の約1/4残るなかで耐震改修支援制度の認知度が低下している
- 南海トラフ地震による津波浸水想定区域は、市街地の大半に及ぶことが想定されており、避難路・避難場所の整備を進める必要がある
- 幅員4m未満の道路に接道する住宅が未だ多く残っている
- 地球環境に配慮した住宅の充実が求められている

## 住生活に関する基本的な方針、目標及び具体的な施策



## 計画の推進体制

市民

住宅・まちづくり知識を深め、自身の住生活向上・安定への取組

徳島市

住まい・まちづくり施策の推進、市民活動等の育成・支援

事業者

良質な住宅サービスの提供、情報開示、公正な取引、コスト軽減

「自助・共助・公助」の発想を重視し、それぞれの主体が役割を自覚、連携していく

## SDGsの推進

徳島市総合計画 2021 における「27. 住環境の整備」に係る以下の3つのゴールに寄与するものとして、SDGs との一体的な推進を図ります。

